

グローバル化中の 国際報道と公共放送の役割

日時： 平成27年3月14日 14:00~17:00

予約不要（当日会場に直接お越し下さい）

場所： 日本学術会議講堂（港区六本木7丁目22-34）

東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5番出口徒歩1分

主催： 日本学術会議社会学委員会メディア・文化研究分科会

当日プログラム

14:00~14:05 開会挨拶 遠藤薫 学習院大学教授

日本学術会議社会学委員会委員長

14:05~14:15 シンポジウムの趣旨説明

吉見俊哉 東京大学教授

日本学術会議メディア・文化研究分科会委員長

14:15~16:15 問題提起者

林 香里 東京大学教授

酒井啓子 東京外語大学教授

音 好宏 上智大学教授

二村 伸 NHK解説委員室 解説主幹

16:15~16:45 討論者

伊藤 守 早稲田大学教授

毛利嘉孝 東京芸術大学准教授

16:45~17:30 全体討論

閉会の挨拶 藤垣裕子 東京大学教授

全体の司会、コーディネーター 遠藤薫 学習院大学教授

ソーシャルメディアの急激な普及によってグローバル化がこれまで以上の広がりをもって進展している。こうしたなか、各国、各地域の様々な出来事や事件そして政治的事柄が様々なメディア、多様な情報伝達の回路を通じて、グローバルなレベルで伝達される時代に移行している。こうした中、既存のジャーナリズム・メディア機関は、「専門家」集団として、正確な情報、多角的な視点、信頼できる解説といった点で、これまで以上の役割を果たしていくことが強く求められている。

特に、国内ニュースの報道に傾斜し、報道量、分析、評価、といった諸点で、国際報道に関しては厳しい評価がなされている日本の状況において、公共放送が担うべき役割は極めて大きいと言わねばならないだろう。

本シンポジウムでは、こうした関心の下で、国際報道に関する公共放送の現状を多角的に明らかにすること、海外の地域研究を専門とする研究者の視点で、公共放送の現状をどう認識し、いかなる課題が提起されているか、この点について問題提起すること、さらに現在の課題に応えるべく、どのような組織的・制度的な改革が求められているかについての提案を行うことを目指している。これらの報告を受けて、それぞれの中核的に問題について、関連する研究者・専門家からコメントをもらう。その後、フロアからの質疑も交えながら、ソーシャルメディアが台頭するメディア環境の中で、国際報道の在り方、公共放送の具体的なあり方について活発な議論を展開したい。